



世界遺産への登録をめざす

Vol.25

秋号/Autumn 2012

第25号平成24年(2012年)10月発行
発行：鎌倉世界遺産登録推進協議会
編集：広報部会 編集人：内海恒雄

武家の古都・鎌倉ニュース

『武家の古都・鎌倉』イコモス現地調査について 記者会見要旨

イコモス調査員・王力军さん来日、現地調査終わる

平成24年9月24日(月)から27日(木)の4日間、ユネスコの諮問機関イコモス(国際記念物会議)から調査員の王力军さんが訪れ、世界文化遺産に推薦されている『武家の古都・鎌倉』の現地調査が行われました。調査の終わった27日夜、鎌倉市役所で記者会見が行われ、文化庁は「総括的説明」で調査内容の概略を明らかにしました。イコモスのルールで調査員本人は会見に出席しませんでした。質疑応答と合わせて会見要旨をお伝えします。

総括説明／石野利和・文化庁文化財部長

〈調査はどのように行われたのか〉

9月24日から4日間、「武家の古都・鎌倉」の重要な要素21カ所すべてで円滑に調査が行われました。鎌倉の文化的価値を審査することではなく、基本的な保全管理の状況について調査することが目的で行われました。

特に①各資産の範囲、境界線の設定状況、②保存管理計画あるいは現状変更についての実施状況、③防火、防犯、④復元についての考え方・実施方法等、に関心を示して調査が行われたとの感触を持っています。来年5月には推薦内容についての専門家による分析と今回の調査結果をあわせてイコモス勧告が行われます。

勧告が出されるまでにイコモスあるいは調査員からの追加的な情報照会があれば、文化庁、国土交通省、4県市で対応して、イコモス勧告とその後の6月にカンボジアで予定されております世界遺産委員会に向けてしっかり取り組んでいきたいと考えています。



鶴岡八幡宮を視察する
王さん(中央)
撮影：高木治恵さん

質疑応答

●調査員の受けた印象

王さんは、夕焼けをバックにした鎌倉大仏を非常に感慨深く見られて、写真を撮っておられました。4日間の調査の集大成のような印象を持って帰られたのではないかと思います。

●鎌倉には武家文化を象徴するような

建造物などが残っていないことについて

武家文化の跡を証明できるような「重要な要素」がしっかり入っているということで、推薦書を提出し、説明させていただいていますので、イコモスの理解も得られるのではないかと思います。

●山稜部や社寺などについて

三方が山に囲まれ、一方が海に開くという独特の地形の中で、武家政権と武家文化が生まれたということを経験していただいたと思います。庭園等をしっかり見ていただくと同時に、精進料理やお茶も体験していただいて、武家文化についての理解を深めていただけたのではないかと思います。

●富士山は「登録まで八合目」、鎌倉は

保存管理についての実感としては、現地での説明と調査員の理解としては、富士山と同じ「八合目」に達していると感じています。

(以上、文化庁石野部長の回答要旨)

●交通渋滞や開発問題等に関する取り組み

渋滞や観光の問題については、市としても様々な取り組みをしているという話をさせていただき、一定のご理解を得られたのではないかと感じております。

(島田正樹・市世界遺産登録推進担当担当部長)

調査日程

調査日程	
9月24日	朝夷奈切通、称名寺
9月25日	荏柄天神社、鶴岡八幡宮、名越切通、法華堂跡、永福寺跡、若宮大路
9月26日	亀ヶ谷坂、仮粧坂、極楽寺、寿福寺、浄光明寺、大仏切通、東勝寺跡、北条氏常盤亭跡、和賀江嶋
9月27日	円覚寺、覚園寺、鎌倉大仏、建長寺、瑞泉寺